

① 自身の仕事

監査法人

② 自身の仕事の紹介

私は現在、監査法人に勤務しており、公認会計士資格取得に向けて勉強中(公認会計士試験論文式は大学3年次に合格、現在は修了考査合格に向けて勉強中)の身です。ここで、「監査法人」という言葉や「公認会計士」という言葉を初めて聞いたという方も多いと思いますので、まずはそれぞれについて簡単にご説明致します。

まず、「公認会計士」とは、国家資格の1つであり、医師、弁護士と並んで三大国家資格と言われることがあります。そして、公認会計士の業務内容についてですが、法律によって、弁護士や税理士が一定業務につき独占的に実施することが認められている(弁護士や税理士でないと実施できない業務がある)のと同じように、公認会計士にも独占的に実施することが認められている業務があります。それが、会計監査です。会計監査とは、簡単に言うと、企業が作成する財務諸表が適切かどうか意見を表明する業務です。より現場レベルでは、会社(クライアント)の方とコミュニケーションをとりながら、証憑を閲覧したり、棚卸に立ち会ったりします。私の現在の業務内容もこのようなイメージです。

次に、「監査法人」とは、上記のような会計監査を実施するにあたり、大きなクライアントに対しても高い品質の会計監査を担保するために公認会計士が集まってつくっている組織です。分かりやすくイメージしていただくために語弊を恐れずに言うと、会計監査をするための「会社」のようなもので、多くの公認会計士が所属している場所といった感じでしょうか。ただ、実際には、私のように論文式試験合格後、会計士資格取得に向けて勉強中の人も多数おりますし、資格はないものの、アシスタントという形で勤務されている方も多数いらっしゃいます。

ここまでだと、公認会計士は会計監査しかしていないように思われてしまうかもしれませんが、そんなことは全くありません。働く場所(どこに所属するか)という観点でも、上記の監査法人に始まり、税理士法人、一般企業経理・財務、一般企業 CFO、独立等幅広く、業務内容という観点でも、上記の会計監査に始まり、IPO 支援、コンサルティング、M&A 支援等幅広いです。また、近年では非財務情報開示保証業務などへ業務が広がりつつあります。グローバルにも門戸は開かれています。こうした多様なキャリアパスは公認会計士の魅力の1つであるとよく言われます。

この他に魅力としては、私が業務を通してよく感じていることがあります。それは、一流企業の内部を観察できる点です。普段の業務において、お手本となるような組織体制を垣間見ることができます。また、入所後数年で経営者層とのコミュニケーションの機会が増えていきます。このような将来に生きる貴重な経験ができるのは他にはあまりないのではないかと思います。

ここまで、業務内容等について簡単に書きましたが、そもそも公認会計士という資格を聞いたこと

がなかったという方もいらっしゃると思いますので、ご自身で詳細を調べていただけますと幸いです。

③ 自身の業界へ興味がある在学生の皆さんへのアドバイス

この業界に入るには、まずはやはり公認会計士試験論文式合格を目指すことになると思います。なぜなら、公認会計士を目指す人の多くが在籍する監査法人は、主に論文式合格者を対象として採用活動を行っているからです。

それでは、具体的にはどのように論文式合格に向けて勉強すれば良いかという点について、私の体験を基にご説明致します。私は、中学生の時から公認会計士資格取得を目標としていたため、大学入学と同時に資格の予備校とのダブルスクールを始めました（大学での学習だけでは著しく不十分、市販されている教材が著しく少ないという点より、ダブルスクールをする人が大多数です）。はじめは学習する科目数が少なく、週一回通うくらいでしたが、次第に学習する科目数が増えてきて、1年次の秋頃からは暇さえあれば勉強、休日は1日10時間以上勉強という形になっていきました。2年次12月の短答式合格を経て、3年次11月に論文式合格するまでこのような生活でしたので、丸2年はバイトもせず、サークルにも属さず、ただひたすら勉強していたということになります。（余談になりますが、勉強時間を確保することが非常に重要となりますので、バイトやサークルとの両立は困難という認識でいた方が良いでしょう。ただ、私自身、大学の学習との両立はできました。）なお、私の場合は大学入学と同時に勉強を開始しましたが、各予備校には様々な学習プランがあるようですので、気になった方はぜひ調べてみて下さい。

次に、学部コース選択についてですが、最も親和性の高いコースは経営・会計系コースと思われます。私自身経験したことですが、経営・会計系コースでは、会計士試験のための学習内容と大学の講義内容に重複する部分が多くあります。双方でメリットがありますので、私個人としては経営・会計系コースが良いのかなと思っています。

最後に、公認会計士を目指すかどうかに関わらず、全ての後輩の皆様へメッセージをお送りしたいと思います。それは、自分が将来何をしたいのかという点について、じっくり考えてみてほしいということです。どんな職業でも辛いことはあると思いますが、そうしたときに、明確に「自分はこれがやりたい」というものがあれば、頑張れると思います。これから多くの時間を費やすこととなる仕事を通して得られる幸福感も間違いだと思います。いずれ就活にあたり、多くの方が自己分析をすることになるかと思いますが、自己分析は就活のときにしなければならぬということはありません。それ以前に行っても良いのです。早ければ早いほど、自分の将来やりたいことに向かって時間を割くことができます。それは大きなアドバンテージとなっていくことでしょう。

長文とはなりましたが、ここまで読んで下さり、ありがとうございました。字数の関係で書けなかったことが多くあります。質問がございましたら、同窓会事務局経由でお気軽にご連絡ください。試験に向けた具体的な勉強のコツは？といった公認会計士関係のことから、どうやってやりたいことを見つけたの？といった公認会計士関係に限らないことまで、多くの質問をお待ちしております！

(2022年7月)